

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300020
法人名	医療法人 光洋会
事業所名	グループホーム 城山庵
所在地	福岡県宗像市石丸1丁目3番27号
自己評価作成日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月21日	評価結果確定日	平成24年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閉鎖的にならないように力を入れており、併設している小規模多機能型居宅介護施設の利用者との日常的な交流をはじめ、敷地内は住民の方が気軽に通ったり遊んだりできるように解放している。近隣の大学生や地域の方の体操指導などの定期的ボランティアに加え、保育園への訪問や行事に招き交流ができています。また行事や外出行事でも準備の段階から家族参加の協力を得ることができてきています。地域からも認知症についての講演依頼があれば寸劇を入れ、施設で行っている音楽や体操なども披露している。職員教育は法人内で協力し他部署の勉強会の参加もできるようにし、研修の機会は充実している。健康管理は母体である赤間病院が隣接している上に医療連携加算で赤間病院訪問看護ステーションと契約関係にあるため、健康管理や体調不良の際には迅速な対応をとり、早めの対応ができています。

塀の無い、開放的な広い敷地内に、小規模多機能型事業所と併設されたグループホーム城山庵は位置している。理念である「自分らしく生活することを支援します」の実現に向けて、地域を生活圏として、地域の一員として暮らせるよう様支援している。職員の提案により、今年度の新しい取り組みとして、「ふみの日」「風呂の日」「お地蔵様の日」を設けており、関係性の継続や心豊かな雰囲気作り、馴染みのある心の拠り所等、新たなアプローチへとつながっている。また、地域の要請を受け、コミュニティセンターでの講演や寸劇、楽器演奏等を通じて、認知症啓発にも取り組んでおり、地域の中での存在も高まっている。母体である医療機関との密な連携は、医療面での迅速な対応や、充実した研修体制による職員育成に活かされており、入居者、家族の安心や、サービスの質の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初職員全員で作上げた理念を常に玄関に掲示して職員が見れるようにしている。ケア方針の検討の際には理念に立ち返り話し合い、個別性のあるケアを目指している。	理念を玄関に掲示している。入居者本人にとって、何が一番大切かという事を考え、常に理念に立ち返ってケアを考えている。基本運営方針の中で具体的に示し、「地域の一員」として生活できる様、個別性のある支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、施設の文化祭には地域住民を招待し出席していただいた。行事では地域ボランティアを招き、踊りや演奏をしていただいている。近隣の保育園と一年を通して交流している。	近隣のコミュニティーセンター主催の「コミセン祭り」に、絵手紙やくす玉を出品している。制作時には、中学校の職場体験学習の生徒達が協力してくれた。また、近くの保育園の園児が遊びに来てくれる事もある。母体法人による「こうよう祭り」では、無料健康相談会やバザーを実施し、城山庵としての文化祭は、地域住民や家族の参加を呼び掛け、盛況に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の社会福祉協議会主催のサロンで認知症についての講演や寸劇をして啓発活動を行った。また施設で行っている音楽や体操を披露することで地域の人々への実践を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では実践報告や事業所の取り組み、利用状況の報告を行い、意見はサービス向上のため反映させている。また地区代表の委員に地域行事の際参加の協力をいただいている。	併設される小規模多機能型事業所と合同で、定期開催されている。委員は、家族、地区代表者、知見者、地域包括支援センター職員等で構成され、状況報告や地域情報の共有をもとに、意見交換を行い、運営への反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が推進会議に参加されており、法改訂や市の取り組みについてその都度説明していただいている。地域密着型サービス事業所の連絡会では介護保険課の方が毎回出席され意見交換を行って協力を仰いでいる。	「地域密着ネットワークむなかた」では、勉強会や研究発表などを行い、市担当者との情報共有や意見交換の機会ともなっている。宗像市の主催する「成年後見研究会」に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束についての勉強会を行い理解を深めている。玄関は夜間以外施錠を行っていない。また身体拘束をしないことを玄関に掲示している。介護の中で利用者の安全のためセンサーマット、ベッド柵を使用する際はご家族に事前に説明し理解いただいている。	日中は施錠していない。身体的な拘束のみならず、言葉による抑制やドラッグロックにも意識を持ち、勉強会を開いて、職員の意識の共有につとめている。家族ともリスクについて話し合い、安全面への配慮を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法を含む勉強会を行い知識を深めるとともに、普段行っている介護、対応を振り返り虐待につながるものはなかったか省みることで業務に活かし、身体的虐待だけでなく心理的虐待がないように努めている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、家族へ成年後見制度の利用についてのアンケートも行った。現在成年後見制度を利用している利用者は少ないが、必要に応じて支援を検討できるように知識を深めている。	宗像市として、成年後見研究会を立ち上げる等、積極的な取り組みがあり、勉強会に参加し、事例検討等を行っている。また、家族アンケートを実施し、認識について情報収集を行っている。法人及び事業所として、研修を実施し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時、改定時には家族に十分に説明を行い、契約書等を一度持ち帰っていただいて不安や疑問点を尋ねるようにしている。疑問に対応し、納得していただければよいとしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、家族アンケート調査、施設内に意見箱の設置を行い意見や要望を表せる機会とし、定例会や運営推進会議で検討している。利用者からも日常的に意見や要望を伺える機会を作り反映できるよう努めている。	夏祭りや文化祭の後には、家族が集まって話す機会があり、意見交換、意見収集の場となっている。また、個別の便りや、母体法人の機関紙などを送って、情報を共有している。家族の意見や要望は、推進会議の中で検討され、運営への反映に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会では積極的に職員の意見や提案を聞き反映させている。また朝夕の申し送りなど日常的にも職員の意見や提案を申し出ることができる環境である。	定例の職員会議や勉強会を通じて、活発な意見交換が行われている。今年より始まった「ふみの日」「お風呂の日」「お地藏様の日」も、職員のアイデアから生まれている。職員が意見や提案を出しやすい様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は1人1人の実績や状況を把握しており、必要に応じて面接を行うことで人事評価の確認を行っている。職員アンケートを元に法人全体で休暇の日数や賃金の改善を図った。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用対象に性別、年齢を理由にした排除は行っていない。職員は業務において特技や経験を活かして能力を發揮する機会を持つこともできている。職員の個性を尊重していただき、社会参加や自己実現のために研修等への参加を促す等の配慮がある。	法人としての採用となり、グループホームの管理者も面接に参加している。新人採用時には「高齢者疑似体験」プログラムを実施し、入居者の方の心身の状態を体験してもらっている。法人には処遇改善委員会があり、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。ケアの質の確保のため、研修も活発に行われており、職員が交代で講師役を務め、職員の質の向上を図っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての勉強会を行い、知識を深めている。日頃のケアの方針も「自分らしく過ごす」理念に添って、利用者の人権を尊重できるように検討し、指導している。	法人全体研修や在宅部、事業所内の研修において、人権や権利擁護、高齢者虐待防止、倫理・法令遵守等を取り上げ、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は毎日来所して管理者や職員1人1人の実力を把握しており、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながら資格取得する職員への援助も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域密着ネットワークに加入しており、法人内外で同業者と交流する機会を作り職員は研修に参加できている。運動会の時は他のグループホームから道具を借りるなど協力も得られた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメント、入所後のアセスメントを管理者と計画作成担当者が行い本人と家族に不安や要望を聞いている。担当職員を決め利用者が安心して生活できるような関わりを心がけ信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族の思いや要望、ニーズについての把握に努め入居前の体験利用を共にしていただくことで話を伺う機会を作っている。入居前のCMや相談員とも連携して不安の解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に本人と家族の状況やニーズを把握を行い、体験や見学をしていただいている。他のサービスの利用も検討しながら必要な支援につながるよう努めている。空床がない場合は他施設の紹介も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の様々な場面で職員は利用者と一緒に作業を行うようにし生活の主体者となるように努めている。利用者同士でも物事を教えあい、時には励ましあうこともあり、過度な介入をしないように気をつけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊、電話等自由に行える。毎月の施設便りや担当からの手紙等で状況報告、ご家族にも可能な限り衣替えや外出等の支援を依頼し実行して頂いている。家族の行事参加で共に過ごす時間も大切にしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度から新たに取り組んだ「ふみの日」では大切な方へ手紙や写真を出して頂いた所、返事が来る等関係継続の支援ができた。また会社の元同僚や友人が訪問された時は居室やフロアで過ごして頂ける様配慮した。	今年新たに取り組んだ毎月の「ふみの日」では、絵手紙や写真などを送ることにしている。手紙を見た家族と会話がはずんだり、返事が来たりして、新しい関係性も生まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の関係を観察、把握し、活動はできるだけ複数の利用者で行うようにすることで活動を通し交流ができるよう配慮している。夜眠るまでソファで利用者同士話し込んでいる姿は毎晩のように見受けられる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合には面会を行ったり病院の相談員に連絡をとるなどして退院時支援ができるようにしている。サービスの終了後も行事などに招待し関係性を大切にしながら、必要に応じて本人や家族の支援や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中やセンター方式のシートで意向の把握に努めている。お地藏様には馴染みのある方が多いことから今年はお地藏様の日を設け希望者はお地藏様の掃除ができるよう支援し精神半利の提供を実施している。	担当職員によるセンター方式を活用した情報収集や、日頃の発言や様子等からくみ取り、職員間で共有しながら、思いや意向の把握に努めている。今年度より「お地藏様」の日を設け、関心を寄せる入居者も多く、心の拠り所となっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に相談員やCMより情報をいただき、生活歴の把握に努めて全職員が入居前から情報を把握できるようにしている。また入居後も本人や家族から生活歴、生活環境などの情報を得て支援に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で本人の現状把握に努め、変化があれば随時管理者へ報告している。また各種記録を残し職員全体で状況共有し、有する能力を生活の中で活かせるような支援に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当職員、計画作成者など関係者で担当者会議を開催し介護計画を作成している。行事に向けた取り組みなど現状や時候にあわせた目標設定を心掛けている。	個別のカンファレンスや担当者会議を経て、本人、家族の意向を踏まえた介護計画が作成されている。目標設定が具体的に示されており、関係者での共有や達成状況の把握がしやすい。看護計画との連動も含め、定期の評価を行い、現状の確認と見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や個人ファイルは常に職員が読めるようにしており職員は情報把握に努めている。また毎月の計画書の評価は介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母と過ごす時間を大切にしたいという家族の希望から毎週の外出を行っている利用者もいる。自宅や施設で情報交換を行い外出の支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアによるメイク・お話など定期的実施している。保育園の行事への参加や地域の文化センター、コミセンの利用も行き外出の機会としている。避難訓練には消防署や消防団も協力的である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の赤間病院とは医療連携も含め、関係性は出来ている。かかりつけ医の選択は家族の希望とし、受診時には日頃の様子を伝える支援を直接的・間接的に行っている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。近隣の母体法人より月1回の往診や、訪問看護も週2回の定期訪問があり、適切な医療を受けられるよう支援している。看護計画作成や評価も行われ、介護計画にも反映されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週2回の定期訪問のほか、24時間オンコールで緊急時にはいつでも対応可能である。利用者の健康面での訴え日常で捕らえた変化や気付きは看護記録や評価表により情報提供している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援について病院へ情報提供のためサマリーを提出している。入院後は治療やケアの状況、退院後施設での可能なケアについてのMSWを中心に情報交換を行いスムーズな退院につなげている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で可能な対応など説明を行い、本人や家族の意向も聞いている。重度化や終末期のあり方について契約書の重要事項に沿って説明している。利用者の状態に応じてその都度家族へ説明、確認を行い家族や本人の思いの把握をしながらケアを行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について方針を説明し、意向確認を行っている。状況の変化に伴い、話し合いを重ね、意向確認及び方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応や救急手当の勉強会を開催したり搬送方法など実技演習も消防署の方に教示していただくようにしている。事故発生時対応マニュアルは事務所に設置しており、いつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。ライフラインが途切れた場合の調理訓練や備蓄の検討も行った。今夏は計画停電にも備えた対応も検討した。災害時には地域の消防団、病院職員の協力体制を築いている。	年に2回、昼夜を想定して、避難訓練をしている。2週間程度の備蓄も用意しており、ライフラインが止まった場合を想定して、炊き出しの訓練も実施している。今年は体験学習の中学性も協力して、火を熾し、炊飯が行われている。搬送訓練などとして、緊急時に備え、日頃より近隣の協力も得ながら連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー及び個人情報保護についての勉強会を行い、日常業務の中でも個人の人格を尊重し誇りやプライバシーを配慮したケアの実践を心がけている。書類関係については鍵のかかるキャビネットに保管している。	年間研修計画の中で、職員が持ち回りで講師役を務め、勉強会を行っている。排泄ケアには特に留意しており、言葉かけにも気をつけ、自尊心に配慮している。基本的なスケジュールはあるが、個別の時間の流れを尊重している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを聞き取りしたり、生活上で可能な限り自己決定できるように選択の機会を設けている。活動への参加や飲み物やメニューの選択など声かけしたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は1人1人のペースに合わせて対応している。眠たい時は休んでいたいたり、1人の時間を過ごしたい方は集団レクは強制していない。できるだけ本人の意向を優先するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にできる方には朝ご自分で着る服を決めたり、着替えも本人の意思でしていただいている。ご自分でお化粧をされる方もいる。ボランティアによるマニキュアも本人の希望により塗っていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、好みの調味料や嫌いなものには代替品で提供している。今年度より献立会議を開き、調理や献立等の検討を行い食事がよりよくなるように努めている。職員も同じテーブルを囲んで食事をしている。	毎月、献立会議を開催しており、更に「食」の充実に取り組んでいる。入居者に希望を尋ねたり、調理方法を教えてもらうこともある。「お地藏様の日」には、精進料理を提供している。準備や後片付けに参加する方の姿も見られた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重は記録にとり管理している。状態に応じて食事量を加減している。食事形態にも個別に調節している。食事量が少ない方は栄養補助食品の提供、水分量の少ない方は水分補給用ゼリーを提供している		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声かけて行っている。義歯の方は就寝前に洗浄剤を利用し、朝装着していただいている。また洗浄時に義歯に汚れが残らないように確認をし不十分な所は介助して清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やパットの使用、紙おむつの方は定時の排泄確認を行うことで、失禁や皮膚疾患を減らすように努めている。紙おむつから昼間のみ布パンツへの移行に成功している方もいる。	生活のリズムや排泄パターンの把握に努め、個別の支援を行っている。布パンツやパッド、紙パンツを昼夜使い分けて、それぞれにあった支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の勉強会を行い、排便促進に良い食べ物を提供している。バイタル表にて排便の回数を把握し、散歩や体操などの運動、腹部マッサージ、排便に応じて下剤を調節するなどの個々の対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけや気の合う利用者と一緒に入浴をしていただくなど工夫をしている。入浴は毎日実施しているため拒否のある方も2日に1度のペースで入浴している。今年度は毎月風呂の日を設け、桜湯など季節に応じた工夫をしている。	浴室は、併設事業所との共用となっている。今年度より、毎月26日の「お風呂の日」には、特別の趣向を取り入れている。季節の草木や花などを浮かべ、季節を感じながら、楽しく入浴してもらっている。特に薔薇の花は好評を得ている。大きな浴室や浴槽はゆったりとしており、毎日入る方、気の合う方と一緒に入る方など、希望に応じている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は決めていない。状況や状態により午睡や30分程度の臥床を促している。日中の活動や布団干し、空調の利用で安眠への工夫を行い、昼夜逆転とならないように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬についての勉強会を行い、処方薬のコピーを個別に整理し、服薬の作用や内容の変更を周知するようにしている。毎回の服薬支援と症状の変化の観察に努め、服薬の調節に繋げている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意事や楽しみ事に応じて行事での飾り作りや表題書き、家事活動、手芸等の手作業に取り組んでいただき、楽しみや役割作りの支援をしている。家族にも協力いただき面会や外出も気分転換になっている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常レクの中で散歩も行われている。食材の買い物や外出行事、地域行事への参加等戸外に出かける機会を作っている。また利用者の希望を元にアクティビティを行っている。家族同伴の外出や外泊には制限を設けていないので定期的に外泊されている方もいる。	敷地内にあるお地藏様に、日常的に散歩を兼ねてお参りしたり、畑の様子を見たり、日光浴などを行っている。また、入居者の希望をもとに、外食やウィンドウショッピング、お寺での説法を聞きに行くなど、個別のアクティビティを行っている。地域行事への参加や食品の買い出し同行など、積極的に外出の支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解とご本人の意向で居室に現金を自己管理されている方もいる。買い物や外出時には利用者様の能力に応じて支払いをいただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「ふみの日」で大切な方への手紙を本人に書いて頂いたり、写真や代筆でお出ししている。本人が希望される時は電話の利用がいつでもできるよう支援している。手紙は返事がくることで喜ばれやり取りも続いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのオープンキッチンから炊事の音も聞こえたり、利用者様と一緒に居室の掃除も行っており、生活感がある。季節の花を飾り、不快な刺激の内容に注意している。季節の飾り物も時期に応じて飾っている。利用者の絵手紙や習字の作品も展示している。	ゆとりある広さの共有空間には、ソファや畳スペースが設けられ、くつろぎの場所となっている。ウッドデッキから芝生へとつながり、日光浴用のテーブルや椅子が置かれている。玄関や壁には飾り付けがなされ、季節を感じる事が出来る。壁には入居者の作品(絵手紙・習字)も飾られていて、日常の取り組みがうかがえる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で1人になれる空間はないがソファや椅子を用意し、自由に過ごせる居場所作りをしている。ソファはいつでもくつろげるようしており、テレビ観賞や会話をを行う等利用者同士の交流もできている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は自宅で使い慣れた家具や衣類を持参していただいたり、居室内に家族や本人の写真、趣味のものやお花を飾ったりして、安心が出来て居心地の良い部屋になるようにしている。	居室入口には、担当職員の写真が掲示されている。鏡台や筆筒など、大切な品や使い慣れた物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。自室の清掃についても、職員とともに行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっている。居室には了解を得て利用者名を表示し、カレンダーや時計を見える位置に配置している。廊下や居室の周囲には手すりを設置して移動しやすいようにしている。		